

第5期『耕人塾』での人材育成と地域貢献

木村 民男^{*}・田中 秀典^{*}

Cultivation of Human Resources and Regional Contribution by the 5th Period of “Kojin-jyuku” Activities

Tamio KIMURA^{*} and Hidenori TANAKA^{*}

^{*}*Department of Human Education, Faculty of Human Studies,
Ishinomaki Senshu University, Ishinomaki 986-8580*

I はじめに

平成24年度、石巻地域の中・高校生の「人間力」を磨き、地域や社会に貢献する人材を育成し、併せて大学生や市民を巻き込んだ学びの場とすることを目的として開設した『耕人塾』も今年度で第5期を迎える。第4期からテーマを「世界に誇れる石巻にしよう」とし、現状の石巻をさらによくするための活動を中心に取り組んだ。具体的には、講話後のディスカッションや宿泊研修での創作活動の他に実践活動として4回の「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」に取り組んだ。そのような活動を通して塾生の「人間力」が磨かれ、地域貢献への意識が高くなり、『耕人塾』の活動が地域に浸透しつつある。その活動内容の報告をしたい。

II 実施要項

1 趣旨

石巻地域の中・高校生の「人間力」を磨き、地域や社会に貢献する人材を育成し、併せて大学生や市民を巻き込んだ学びの場とする。

2 指導指針

- (1) グループ討論や実践活動を通して「人間力」を向上させ、社会貢献への高い志を持たせる。
- (2) 「文・武・楽三道（学問・武道・スポーツや趣味）」の講話や体験を通して、人間的な幅と深さを身に付けさせる。
- (3) 日本の伝統文化を体験させ、自然や郷土を愛する心を育て、礼儀作法を身に付けさせる。

3 テーマ及び実践事項

- (1) テーマ：「世界に誇れる石巻地域にしよう パートⅡ」
- (2) 実践事項：「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」活動

4 活動方針

- (1) 高い志を持ったリーダーを育成し、地域や社会に貢献する人材育成を目指す。
- (2) 塾生の主体的な考えを生かした実践活動を取り入れる。
- (3) 中・高校生のみならず大学生や市民の学びの場とする。

5 活動内容

- (1) 中・高校生及び大学生を5～6人の班に分け、指導者も塾生と一緒に活動する。
- (2) 年間11回の活動とし、8月に1泊2日の宿泊研修を実施する。
- (3) 塾生の主体性・自主性を重視し、達成感のある活動にする。

6 日時・場所

- (1) 毎月1回（第3土曜日）18：30～20：30実施を基本とする。日程等は別に定める。
- (2) 研修場所は主として石巻専修大学及び「百俵館」とする。

7 対象及び定員

- (1) リーダーとしての志を持ち、参加意欲の高い石巻地域の中・高校生とする。
- (2) 塾生の定員は30名程度とする。
- (3) 大学生及び若手教員や市民の参加も随時歓迎する。

8 その他

^{*}石巻専修大学人間学部人間教育学科

第5期『耕人塾』での人材育成と地域貢献

- (1) 服装は場や活動内容に相応しい服装とし、欠席の場合は必ず班長へ連絡する。
- (2) 通塾等は保護者の責任で送迎する。
- (3) 受講料は無料とする。

Ⅲ 年間活動計画

回	月日	主 活 動	活 動 内 容	担当者	HP
1	6/18 (土)	【開塾式・講話】 18:30～20:30 ・テーマ「世界に誇れる石巻地域にしよう パートⅡ (あいさつ・清掃・ゴミ拾い) 活動」 (石専大)	・塾長あいさつ、第4期「耕人塾」紹介 ・自己紹介、活動計画、約束確認、班分け ・班長選出、役割分担、連絡網 ・講師：鈴木省一氏	指導委員 長他全員	新福 田中
2	6/25 (土)	【実践活動】(石巻駅前) 7:30～8:30 ・あいさつ・清掃・ゴミ拾い活動	・石巻駅前集合 7:30 (あいさつ、出席確認) 石巻駅前～仲町交番 7:40～8:20 ・石巻駅前解散 (写真撮影) 8:30	主担当	新福 田中
3	7/16 (土)	【実践活動の中間発表】 18:30～20:30 【講話】「石巻の良さととは？」 (石専大)	・実践活動の成果と課題 ・宿泊研修について ・講師：	担当者	
4	7/23 (土)	【実践活動】(女川駅前) 7:30～8:30 ・あいさつ・清掃・ゴミ拾い活動	・女川駅前集合 7:30 (あいさつ、出席確認) 女川駅前～駅前商店街 7:40～8:20 ・女川駅前解散 (写真撮影) 8:30	主担当	新福 田中
5	8/2 (火)	【実践活動】(中瀬周辺) 5:30～7:00 ・あいさつ・清掃・ゴミ拾い活動	・中瀬集合 5:30 (あいさつ、出席者確認) ・中瀬～住吉公園 5:40～6:20 ・中瀬公園解散 (写真撮影) 6:30	主担当	新福 田中
6	8/11 (木) 休日	【宿泊研修】 9:00 集合 ・班別研修、体験学習 ・奉仕活動 (土田畑村)	・研修①音楽ワークショップ (講師：音楽プロデューサー 猪狩太志氏) ・研修②野外炊飯、レク	指導委員 長他全員	
7	8/12 (金)	【宿泊研修】 11:00 解散 ・講話、奉仕活動、体験学習 (土田畑村)	・研修③朝日を拝もう ・研修④座禅 ・研修⑤奉仕活動	指導委員 長他全員	
8	9/17 (土)	【講話・体験活動】 18:30～20:30 「文・武・楽の中から選択？」(百俵館)	「若い人たちに伝えたいこと」(仮題) 講師：国土大前学長三浦信行氏	担当者	新福 田中
9	9/24 (土)	【実践活動】(矢本駅前) 7:30～8:30 ・あいさつ・清掃・ゴミ拾い活動	・矢本駅前集合 7:30 (あいさつ、出席確認) 矢本駅前～駅前商店街 7:40～8:20 ・矢本駅前解散 (写真撮影) 8:30	主担当	新福 田中
10	10/15 (土)	【講話・体験活動】 18:30～20:30 「日本の伝統文化：茶道」 (石専大)	講師：表千家教授石田邦子氏	担当者	新福 田中
11	11/19 (土)	【講話・閉塾式】 18:30～20:30 ・第5期修了証授与 (石専大)	講師：運営委員 or 指導委員	指導委員 全員	新福 田中

Ⅳ 塾生及び指導委員等

・塾生：38名 (高校生 21名、中学生 17名)、指導委員：26名、指導補助員 (石巻専修大学) 9名、運営委：16名、協力者：13名、合計：102名

Ⅴ 研修及び実践活動

1 第1回「耕人塾」

[日 時] 平成 28 年 6 月 18 日 (土) 18:30～20:30

[場 所] 石巻専修大学 2 号館 3 階 2301 教室

[テーマ] 世界に誇れる石巻地域にしよう パート 2

－世界に誇れる『あいさつ・清掃・ゴミ拾い』を目指して－

[参加者] 74 名

(1) 挨拶および趣旨説明 (塾長)

石巻地域をもっともっとよい地域にしたいという思いで耕人塾を始めた。大震災では多数の人が亡くなった。亡くなられた方々への思い、その方のためにも石巻地域をよりよいものにするという誓いで黙とうを捧げたい。耕人塾では「人間力を磨き、地域社会に貢献する人材育成」を目指している。また大学生や市民の学びの



場にしたいと思っている。指導指針としては、「1. 社会貢献への高い『志』をもたせる。2. 人間的な幅と深さを身につけさせる。3. 自然や郷土愛する心を育て、礼儀作法を身につけさせる。」の3点を考えている。幕末の志士橋本左内は、15歳の時に「志とは自分の生き方の決意を固めること」という五か条を「啓発録」に書いる。塾生みなさんも、橋本左内のように「『志』を立て、新たな自分をつくっていく」ために、ともに歩みだしていこう。

(2) 活動計画とテーマ学習の進め方、心構え (担当：平塚)

卒業したこれまでの塾生は、「協力、思いやり、感謝する心、行動力、挑戦の心、ものの見方、いろいろな考え方など」を、耕人塾で学ぶことができたと書いた。ぜひ耕人塾で多くの学びを達成してほしい。そして自分がどう世の中の役に立つかを考えてほしい。「他人事を自分事に、他人の喜びを自分の喜びに」してほしい。耕人塾では、「あいさつ・清掃・ごみ拾い」を実践活動の柱にする。当たり前のことを当たり前にするだけでなく、当たり前のことを素晴らしくやろう。そして、世界に誇れる石巻にしようと呼びかけた。



(3) 出合いのつどい (担当：前田)

「所属・名前・アピール・耕人塾でがんばること」について、各自で画用紙にまとめ、各班で発表するアクティビティを行った。指導委員のアドバイスのもとに、それぞれが主体的に動き、初めての塾生同士で自己紹介を積極的に行った。塾生としての仲間意識を高めることとなった。

(4) 講話「石巻をみつめて」

講師：鈴木省一氏 (写真業／漁師見習い)

神奈川県座間市出身。震災前は東京で仕事をしていた。震災前は石巻をよく知らなかった。キャンプ座間には米軍基地がある。隣には厚木飛行場がある。自分の街が大嫌いだった。埼玉の大学に進学し、一人暮らしを始めた。1年生の頃に写真に熱中した。薬品を使ってネガを現像する体験は興奮するものであった。サラリーマンにはなろうと思わなかった。写真部だった仲間と二人で東京で一緒にカメラマンの修業をした。フリーランスで仕事をしていた。都会の生活に疲れ切っていた。どこか地方で、どこでどんな生き方をするのかということを考え、震災後、できることがあればという思いで石巻に来た。



雄勝で炊き出しのボランティアをした。津波の被害を目の当たりにした場所が、雄勝だった。この光景を見て何ができるんだろうと呆然としてしまった。どういう場所だったのか、想像できなかった。ここが少しでも良くなっていくことにかかり続けたいと思った。他人事ではなく自分事という平塚先生の言葉があったが、私もその時他人事であった。しかし、自分の事としたいと考えた。お金が続くだけはいたいと思い、2か月石巻にいた。2か月後にボランティアを受け入れる団体の仕事をしながら、石巻の復興に関わってきた。花を植えたいという方がいて、私も協力したいと思った。人の手で何ができるかわからなかった場所に、花を咲かせることで色づかせることができた。今でも雄勝の方々と関わらせていただいている。

朝の石巻の風景を撮り始めた。2013年の1月からほぼ毎日日の出前の石巻の風景を撮ってきた。いろんなところで写真展もやっているが、石巻の現状と変化を写真で伝えようと考えてやってきた。もう少し深く考えてもらいたいという願いから、薄暗くてわかりづらい写真を通して伝えようとしてきた。日和大橋の美しい写真、今の南浜の写真、南浜の写真を撮ることをためらったこともあった。たくさんの方が亡くなられた場所であるが、写真を通して植物が新しい命を生み出しているそのすばらしさを希望という写真によるメッセージで伝えたいと思っている。漫画館の向かい側にあった最後の



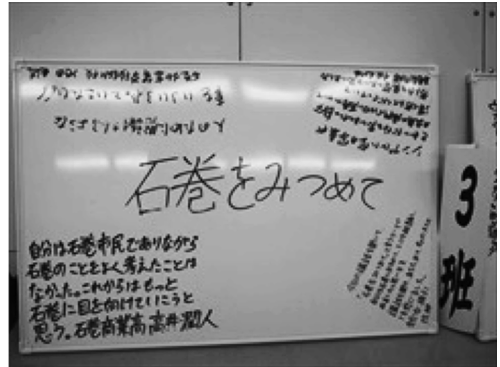
アーケードがあった場所の写真。変化していく街の歴史を記録として撮っていきたいと思っている。今回の話を機に、自分の故郷のことを考えた。自分の街のことを知らない自分に気づいた。もったいないことだと今では思っている。

石巻を撮り続けている。石巻の素晴らしさを話そうと思っていた。正直、教えてほしいなあという思いもある。海と山がすごく距離が近い感じがする。ぜひ、自分で何かをみつけてほしい。震災後5年が過ぎ、石巻は動き始めている。ぜひ、いろんな角度で今の若い目で石巻を見つめてほしいと思う。私は石巻はとてもおもしろい街だし、おもしろいことができる街だと思っている。長浜の写真。海水浴場の写真。ゴミがあふれている。どうにかしたいという思いがあるが、どうしたら変えられるのかと思っている。若い人たちの力に期待したいと思っている。

(5) 全体学習（担当：三浦）

【班の意見の共有】

班ごとに学んだことのシェアをした。班ごとにホワイトボードに鈴木省一氏の講演「石巻をみつめて」を通して思ったこと感じたことを書き記した。書いた内容を班内で発表し、自己紹介とともに意見交流を行った。指導委員の見守る中、発表した塾生に対して、拍手で支える姿勢は仲間意識を生み出す温かいものとなった。「もう少し石巻をゴミのないきれいな場所にしていきたい」「石巻をおもしろい場所にしていきたい」という塾生の声は、鈴木氏の講演に啓発された意見が堂々と発表されていた。



2 第2回「耕人塾」実践活動

【日 時】平成28年6月25日（土）7:30～8:30

【場 所】石巻駅前

【テーマ】「世界に誇れる『あいさつ・清掃・ゴミ拾い』を目指して」

「あいさつ・清掃・ごみ拾い」を柱にする耕人塾実践活動方針に沿って、塾生による第1回目のゴミ拾いが石巻駅を起点に行われた。

霧雨の模様だったが、立町商店街の方々も含めて67名の参加者だった。この数は、これまでのゴミ拾い活動の中でもっとも多い参加者数である。耕人塾関係者のほかに、青年会議所や立町大通り商店街の皆様や鉄筋工をされていて夜勤明けという青年までもが参加してくれた。

最初に木村塾長から「みなさんのおかげで雨があがって良かった。昨年以上の参加者が集まった。ゴミ拾いを通して石巻をもっともっと良い街にしていこう」という挨拶があった。次に、平塚指導委員長から「石巻駅前は石巻の玄関口。ピカピカにして、石巻を訪れる方々を気持ちよく迎えられるようにしていこう」と呼びかけがあり、収集区域によって3つのグループに分かれてゴミ拾いが実施された。

ゴミ拾いの活動に従事していた塾生の多くが、「充実感がある。」「なかなかこのような機会がないので街がきれいになることに貢献できるのはうれしい。」「すがすがしい気持ちになれる。」と感想を語ってくれた。

ある中学生に「誰かに言われて嫌々ながら…という気持ちはないの?」と聞くと、「そんなことはありません」と力強く答えてくれた。

ゴミ収集を終えた参加者は、分別作業を行い、駅裏の集配所に運び一時間余りで活動を終えた。

ゴミ拾いという小さな活動だが、塾生にとっては石巻を考え



るきっかけになった。

3 第3回「耕人塾」

[日 時] 平成 28 年 7 月 16 日 (土) 18:30~20:30

[場 所] 石巻専修大学 5 号館 2 階「学生ホール」

[テーマ] 石巻で活躍している人から生き方を学ぼう

(1) 塾長挨拶

大事にしてほしいことが 3 つある。

- ・高い志をもち、それを達成するために日々努力してほしい。
- ・自分がしてもらっただけでなく、誰かのために何ができるかを常に考えられるようになってほしい。
- ・普段から正しい礼儀を意識し、さり気なく、礼儀ができるようになってほしい。

(2) 第1回、第2回耕人塾を振り返って (担当: 平塚)

第1回耕人塾の講話や第2回の石巻駅前周辺のゴミ拾いをして感じたことを班の中で交流した。「石巻のことをもっと知りたい。」「実際にゴミを拾ってみたら、小さいゴミが多く落ちていた。」などと話す塾生もいた。お互いに話をするうちに、班の雰囲気も和らぎ、にこやかに会話を楽しむ班も増えていた。

(3) 講話「私の人生を変えたボランティア～活かし、活かされる関係をつくる～」

講師: 岩元 暁子 氏 (石巻復興きずな新聞舎 代表)

神奈川県横浜市出身。日本マイクロソフト社で4年ほど勤務。震災後、ボランティアで石巻に入り、2012年4月からピースボート災害ボランティアセンターのスタッフとなり、今年3月に終刊した「仮設きずな新聞」の編集長も務めた。4月からは、『石巻復興きずな新聞舎』の代表となり、石巻市内の仮設住宅や復興住宅に無料配布する情報紙「石巻復興きずな新聞」を制作している。

講話の第一声が、「私の話を聞く間は、絶対に寝ないでください。」という一言だった。以前、世界の研修社員の方に、「日本人は礼儀正しいと思っていたが、人の話を聞く時に居眠りをするなんて失礼だ。」と驚かれたそうである。それ以来、岩元さんは人の話をしっかりと聞くことを意識し、絶対に寝ないようにしているので、塾生にもそうしてほしいということだった。

次に、自己紹介をしていただいた。家族のことや中学・高校時代のこと、アイルランドに留学したことなどを詳しく教えていただいた。アイルランドに留学した際に、「自分が楽しいと思えることが一番大事」ということに気付かされ、これまでの自分の考えが大きく変わった。

大学を卒業し、「自分がチャレンジできる環境に就職することが大事」という思いから、日本マイクロソフト社に入社した。コンピューター関係にとっても詳しく、仕事を手際よくこなしていく同僚たちに比べ、自分は仕事が思うようにできないことに、劣等感を感じる日々もあった。

退社後は、通訳のボランティアを行った。仕事内容としては難くこなすことができたが、ボランティアを行っている方々と行政の方々の関係がうまくいっていない状況だった。そこで、両者の間に立って運営のサポートを行う役割に就くことになった。その時に、「自分のこれまでの人生で身に付いたスキルが、誰かの役に立つことがある」と実感できた。

続いて、東日本大震災後から現在に至るまでの経緯などを、3つの観点で話してくださった。

① 「私がどうして石巻に来たのか」

東日本大震災の時に、自分に何かできることがないかと思い、ボランティアを行うと決めた。いくつかある団体の中から、「ピースボート災害ボランティアセンター」を選び、災害ボランティアを始めることにした。なぜ、ピースボートに決めたかという、団体の考えに共感したことはもちろんだが、初めに厳しい体験をすれば、後からどんなことも楽に感じられると思い選んだ。

② 「私が石巻で何をやってきたか」

初めの1週間だけボランティアをやろうと思っていたい



たが、延長して石巻に残ることにし、ボランティアで来た人達をサポートするリーダーになった。その後、「仮設きずな新聞」の編集などを手伝うことになった。仮設団地を訪問し、一軒一軒に完成した新聞を手渡ししながら、悩みや近況を聞いて回った。初めは大変だったが、取材や訪問を重ねるうちに、徐々に魅力ややりがいを感じられるようになった。

2016年3月に「仮設きずな新聞」を終刊した。すると、住民の方々から「続けてほしい!」という願いだけでなく、手伝ってくれていたボランティアの方々から「続けたい!」という声が上がったこともあり、新団体を立ち上げて継続することになった。現在は、「石巻きずな新聞」の発行を行いながら、一度はやりたと思っていた臨床心理士と似たようなことが、形を変えて実現したように感じている。

③ 「今どんな想いで石巻にいるのか」

自分と同じように、ボランティアとして他の地域から来た人達が感じている「自分の価値」を、地元の方々にボランティアを手伝ってもらいながら感じてほしい。誰かの役に立つことで、自分の自信になってくれればと思っている。また、地元の方々に、石巻に来たボランティアの橋渡し役になってほしい。自分がやってきたことを地元の方々にやってもらうような環境を作ることが、今の自分がやるべきことかなと思っている。

最後に、「15歳のわたしに今伝えたいこと」というテーマで、塾生にメッセージをいただいた。

- ・「誰かの役に立つことは素晴らしい」様々な経験をするのが、いつか自分の自信になる。
- ・「何かをしてあげることよりも、お互いを活かし・活かされる関係をつくるのが大事」何かをしてもらっているだけでなく、自分も何かをしていくことが長く続けていく秘訣である。
- ・「まわり道はキャリアの強みになる」これから先、たとえ失敗したと思うことがあったとしても、それはいつか自分の強みになる。

(4) 全体学習(担当:大友)

自分の心に残ったことや自分なりに考えたことをホワイトボードに書き、書いたことを班ごとに見合ったり、考えを交流したりした。塾生の様子を見ると、他者の考えを聞くことで、新たなことに気づき、自分の考えをさらに深めることができたようだ。

その後、自由に歩き回りながら他の班のホワイトボードを見合い、お互いにどんなことを感じ、考えたのかを共有した。共感した考えに線を引いたり、コメントを追加したりする姿も見られ、様々な考えに広く触れることができた。最後に、改めて今日の活動を個々に振り返り、これからの自分につながることを、大事にしていきたいことを短い言葉でまとめて、全体学習が終了した。



4 第4回「耕人塾」実践活動

[日 時] 平成28年7月23日(土) 7:30~8:30

[場 所] 女川駅前

[テーマ] 世界に誇れる『あいさつ・清掃・ゴミ拾い』を目指して
＜活動内容略＞

5 第5回「耕人塾」実践活動

[日 時] 平成28年8月2日(火) 5:30~

[場 所] 中瀬周辺

[テーマ] 世界に誇れる『あいさつ・清掃・ゴミ拾い』を目指して
＜活動内容略＞

6 第6・7回「耕人塾」

宿泊研修1日目 8月11日(木)

○ ワークショップ1:「あいさつを極めよう」

平塚指導委員長よりあいさつの意義や基本動作を教
えていただき、発声練習を兼ねた口や頬の運動をした
後、班ごとに「あいさつ実習」を行った。リーダーの掛
け声に合わせてテンポよくあいさつや返事をしていく
うちに、だんだんと張りのある声が出せるようになり、
表情や姿勢もよくなってきた。最後に、より良いあい
さつを意識して練習した成果を班ごとに発表し、2班が
最優秀班となりました。40分ほどの活動だったが、あ
いさつについて考え直すきっかけとなった。

○ ワークショップ2:「世界に一つだけの歌をつくろ
う」講師:猪狩 太志 氏(音楽プロデューサー)

音楽プロデューサーの猪狩太志さんを講師にお招き
して活動した。まず、音階が書かれた札を一人ずつ首
から下げ、起床時刻順や誕生日順に並んだ。この偶然
並んだ音階に音符を書き加えて、わずか30分ほどでメ
ロディーが出来上がった。

次に、グループごとに石巻の魅力を付箋に書き出し、
割り当てられたパートのメロディーに合うような言葉
を選んでいった。決まっている文字数で、自分たちが
伝えたい石巻の良さを歌詞としていく作業に苦労した
が、石巻の豊かな食材、自然・観光、方言や人情等が表
れた歌詞となった。

最後に歌の練習をしてレコーディング。見事に世界
に一つだけの歌が完成した。

歌づくりを通して、石巻の良さを改めて考えるこ
とができたし、みんなと協力して一つのことを成し遂げ
る達成感を味わうことができた。

- ワークショップ3:「カレーを極める」
- ワークショップ4:「CMで表現しよう」
- ワークショップ5:「夜を楽しむ」
- ワークショップ6:「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」
- ワークショップ8:「キンボールを楽しむ」

7 第8回「耕人塾」

[日 時] 平成28年9月17日(土) 18:30~20:30

[場 所] 百俵館

[テーマ] 「志を高く持って生きる」

[講 師] 国士館大学前学長 三浦 信行 氏

<活動内容略>

8 第9回「耕人塾」実践活動

[日 時] 平成28年10月1日(土) 7:30~8:30

[場 所] 矢本駅前

[テーマ] 「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」

<活動内容略>

9 第10回「耕人塾」

[日 時] 平成28年10月15日(土) 18:30~20:30

[場 所] 石巻専修大学5号館3階学生ホール

[テーマ] 「茶道を日常生活に生かす」

[講 師] 石田 邦子 氏(表千家教授)

○ 講話「茶道を日常生活に生かす」

○ 茶道体験

(1) 茶道のお点前披露

石巻専修大学5号館3階学生ホールに畳を敷いた仮の



茶室。床の間に見立てた空間に飾られた「和敬清寂」の掛け軸。花入に飾られたツワブキの花。客人をもてなすために前もって用意された茶道具一式…。

その茶室を囲むようにして、塾生をはじめ参観者全員が、先生の所作を静かに見つめ、先生の話をお大に聞き入っていた。また、「お先に頂戴いたします」「お点前頂戴いたします」「もう一服いかがでしょうか」「十分頂戴いたしました」といった相手のことを思う言葉を復唱するときも、大きな声で揃えて唱えることができた。飲み終えたときに口をつけたところを指でふくこと、懐紙で指をふくこと、一畳を6歩で歩くといった動作の意味や仕方についても学ぶことができた。

(2) お茶を飲む(塾生・保護者・指導教員が体験)

茶道体験は、講師の先生に一通りの説明をしていただいた後に始まった。実際に、お茶をいただく場面では、一人一人が緊張した面持ちで取り組み、教えていただいた作法、一つ一つの動作に心を込めて行う姿が見られた。また、出されたお菓子(京都の銘菓「白川路」と山梨の銘菓「月の雫」)のおいしさに、思わず微笑む姿や笑顔がたくさん見られた。

茶道体験を通して、一つ一つの作法から、日本の思いやりの心、相手を思う心を学ぶことができた。当日は、石巻専修大学に通う留学生数名も参加し、日本の伝統文化に触れていた。



(3) 講話「茶道を日常生活に生かす」

はじめに、講師の石田先生から「和敬清寂」という言葉について、次のようなお話があった。「『和敬清寂』には、お茶の真髄が含まれています。茶室に入った人たちが、和やかに、相手のことを敬うということです。茶碗の正面を外して飲むということは、茶碗を作った作家さんが一番見てほしい、または一番力を入れて作る(描く)ところで、正面を外すということはその作家さんをも敬うということ。それから、茶室に入ったら、やはり清い心で相手のことをよく思い出して(お茶を準備し)、そして、その清い心でそのお茶をいただくということ。この『和敬清寂』は、お茶の真髄だと言えます。」

次に、今日学ばせていただいた「お先に」という一言についてお話があった。「お先に」という言葉には相手を思う心がふくまれていること、茶道では人との出会いを一生に一度のものと思い相手に対し最善を尽くす「一期一会」という言葉があることも学ばせていただいた。

それから、利休百首(千利休)より抜粋された十首に教えていただいた。そのうちのはじめの四首はぜひ覚えてほしいというお話があった。

お点前の作法を覚えてお茶をいただくだけが茶道ではなく、お茶の世界には「相手を思う心」や「おもてなしの心」が精神文化として存在することを感じた一日になった。

10 第11回「耕人塾」

[日 時] 平成28年11月19日(土) 18:30~20:30

[場 所] 石巻専修大学5号館3階学生ホール

[テーマ] 「耕人塾で得たもの」

○ 塾長挨拶

木村民男塾長からは、「情熱(人を動かすためには情熱がなければならない)・行動(考えていることを行動に移すことが大切。そこから学ぶものが多くある)・継続(耕人塾で学んだこと・考えたこと・実践したことを継続することによって学ぶべきことが新たに生まれてくる。)」という三つの大切なキーワードが伝えられた。

引き続き、指導委員遠藤知子先生より、本日の流れについて、以下のような確認が行われました。特に、「問3」については、ホワイトボードに書き込み、全体発表の中で班の考えを述べるとともに、個人としても第1回耕人塾で書いた目標(画用紙に書かれたものが返却



される) がどれだけ到達されたのかにも触れるように指示が出され、班活動に入った。

問1 耕人塾で得たもの。

・班活動を通して ・講師の話を聞いて

問2 耕人塾で自分自身が成長した点。

耕人塾が自分自身の成長にどうつながったか。

問3 「世界に誇れる石巻地域」のために、これから耕人塾はどうあるべきか。

○全体発表

<1班の発表>◎：班全体 ○：個人

◎清掃活動の規模を広めつつ、耕人塾の活動を多くの人に知ってもらう。

○ゴミ拾いやいろいろな講師の先生の話聞いて、自分自身のレベルアップにつながった。参加して本当に良かった。

○積極的に物事を考え行動できるようになった。今後の進路選択に役立てたい。

○成長したことは、積極的に行動できるようになったことである。これからも生かしていきたい。

○他の人との交流を通して、自分の考えを吟味し深く考えられるようになった。

○昨年とは違った活動もあり、班で協力することによって、無茶ぶりにも対応できることが分かった。来年も参加したい。

○何回か来られない時もあったが、人前で話すことが苦手だった自分が、積極的に行動できるようになってきた。

○講話に対して自分の意見が持てるようになったこと。班で交流することによって、新しい発見があり、合宿などで新しい人との交流も生まれた。

○体験を積むことによって、いろいろな目線で石巻を見つめられるようになってきた。社会に貢献する活動を続けたいので、来年もぜひ参加したい。

<2班の発表>◎：班全体 ○：個人

◎「何かをしたいと思っても一人ではできないので、人から人へと発信していく力を身に付けること。」
「地域との関わりを深めていくこと。」が大切である。

○3回目の参加です。講師の先生から、人生で大切なものは何かということ学ぶことができた。来年も参加したい。

○人とかかわりは難しいが大切なことであり、学んだことを改めて社会に出て役立てていこうと考えました。

○苦手な日本語に対して、新しい発見がありしゃべり方も変えていくことができた。楽しかった。

○土田畑村での絆、コミュニケーション、茶道での「お先に」という言葉の使い方など、3年生になってからも、就職してからも使っていけるということを学んだ。

○思いやりの気持ちに欠けていたが、耕人塾に参加してその大切さを知り、少しずつ他の人の気持ちを考えられるようになってきた。感謝している。来年も参加したい。



<3班の発表>◎：班全体 ○：個人

◎当たり前のことを当たり前にやっていくこと。当初、ゴミ拾いは自分でやるべきことと考えていなかったが、挨拶・ゴミ拾いなどの実践活動を通して変わっていった。また、地域社会との連携を強めて、耕人塾としても特徴的な活動を行い、石巻の良さを世界に発信していくことが大切だと考えた。

○人前で話す力が、少しずつついてきて、いい経験となった。

○様々な分野の人の話を聞けて、世界観が広がった。違う学校や学年の人と関わることで、広いコミュニケーション力がついてきた。

○自分の意見をしっかり持つことができるようになってきた。自分を高めることもできた。参加してよかった。



第5期『耕人塾』での人材育成と地域貢献

- 講師の先生からのお話を聞いて、自分の思っていることの視野が広がった。耕人塾で学んだことや実践したことを家に戻っても学校に行っても実践できるようになってきた。
- 中学2年の一期生から5年間耕人塾に来ている。当初、講師の先生のお話を聞くだけで精一杯だったが、人前で話をしたり、学年が上がるにつれて率先して意見を述べたりまとめたりする力が身に付いてきた。あいさつやゴミ拾いという当たり前と感じられるような実践活動を積み重ねることによって、地域貢献として生かしていく大切さを学んだ。

<4班の発表>◎：班全体 ○：個人

- ◎同世代の人が外国人の方と交流いろいろな人と話せるようになること。救命救急など人の役に立つ活動を行うこと。
- いろいろな人と話せるようになった。
- 人への気持ちなど心の場面の大切さを知った。
- 講師から聞いた「行動することの大切さ」が、人生に生かせると考えた。
- 矢本でボランティア活動をしたときに、知らない人から声をかけられた。広まってきていることを感じるとともに活動の内容を的確に説明する責任も感じた。
- 人前で話すことが苦手と怖いと感じていたが、少しずつ話せるようになり自信を持てるようになってきた。楽しい活動の一年間だった。

<5班の発表>◎：班全体 ○：個人

- ◎活動を広げる。あいさつなど基本的な行動をしっかりする。自分を磨くだけではなく、他のことにも目を向けていく。地域の人の笑顔になっていく。
- 少しずつ積極的になってきた。地域の清掃活動などにも参加し、人前で話す機会も増え、自信がついてきた。
- 相手の意見に流されてしまっていたが、いろいろな先生の話などを聞いて、自分の考えをもち、人に言えるようになってきた。来年も参加したい。
- 人との関わりの大切さを知った。意見交流の中から、一人ではわからないことも、改めてわかる機会に恵まれた。
- もっと早く参加していればよかった。普段やらなければいけないところで何気なくゴミ拾いをすることもできた。講師の先生の話やゴミ拾いなど、進路に生かせた。こういう経験を支えてくださった皆さんに感謝したい。これからも活動を続けていきたい。
- 苦手であったことも積極的に表現できるようになってきた。友達や仲の良い人も増えた。
- 積極的に行動できるようになってきた。
- 様々な体験を通して、志をもつことの意味や大切さが理解できた。少しずつ積極的になり、生活にも生かせるようになってきた。
- ※塾生の書いた「問1・2・3」の用紙を回収し、コピーを取り、今後の耕人塾の活動に生かしていくため平塚委員長が保管する。用紙は、コピーしたのち、塾生に戻される。



○講評「励ましの言葉」(人間学部長 山崎 省一氏)

○ 塾長より、修了証授与

○ 木村塾長より 講話：「自分をつくるのは自分」

耕人5-6号でも触れた「自主・自律・品位」とは、石巻中学校の校長時代に新たな生徒像として掲げたものであり、最初は体育館に掲示し、次の校長先生により屋上に掲示されるようになった。

どこから見ても、だれが見ても、好ましい心と形を身につけてほしい。そして、悩みにどう向き合う

か。努力してもどうしようもないものや境遇は素直に受け入れ、自分で何ができるのかを考える。みんなで考えることも大切だが一人でじっくり考え、反芻してみる。そうすることで必ず灯りが見えてくるので、自分で切り拓いていく。また、善い行いを一生懸命すると必ず応援してくれる人が出てくる。自分で自分を作り、中核となって活躍してほしい。

Ⅵ おわりに

成果と課題も含めて、平塚真一郎指導委員長の「あとがき」でまとめに代えたい。

あとがき

東日本大震災後、木村塾長の呼び掛けによって産声を上げた「耕人塾」も、第5期を終えました。幸いにも、私はその立ち上げから指導委員として携わることができ、第3期からは指導委員長を拝命し、関わって参りました。「幸い」と申したのは、耕人塾を通して、たくさんの方々とご縁をいただいたことと、そうした方々と、一緒に活動する時間を共有できたことです。

耕人塾は木村塾長の理念の下、「志」をもった人たちによって構成されています。塾生はもちろん、運営委員、指導委員、協力者、指導補助員等、「石巻地域のために」という思いをもった仲間が集い、語らい、活動することは、そこに地域の未来を感じさせてくれます。前向きな熱量をもって行われる活動を通して、その未来を背負うであろう中・高校生の瞳の輝きが増していくことや、自分の成長を感じつつ巣立っていく姿を間近で見られることは、指導者としてとても幸せなことなのだと感じます。

その塾生たち、すなわち中・高校生が耕人塾を志望してくる動機は様々です。自分から申し込んだ生徒もいれば、家族や学校の先生の勧めがあって申し込んだ生徒もいます。その志望理由を見てみると大きく二つに分かれます。一つは、耕人塾を通して、視野を広げ、自分自身を高めたいという願い。もう一つは、石巻地域のために何か役に立ちたいと、地域貢献の思いからです。しかし、動機、理由はどうあれ、最後は自分の意思で決め、参加しているのは間違いありません。

「背景はどうあれ、耕人塾に名を連ね、この場にいることには、必ず意味がある」ということを、第1回目の時に話しました。そのことは、震災によって少なからず大変な思いをしながらも、石巻地域で、今、生かされていることの意味にもつながります。そして耕人塾を通して出会う人やもの、考え方やその他様々なことが、塾生の人生の糧になってくれることを願いながら、我々は指導に取り組んできました。それは蒔いた種がやがて成長し、きれいな花を咲かせてくれることを願うことと重なります。

『『どうなるか』ではなく自分から『どうするか』が大切だよ』。時には自分の殻を破ることも必要になります。『『学ぶ』とは「世界」を広げることなのだ、見て聞いて、体験して、見える世界を感じ取ろう。広い視野で物事をとらえよう』。学校とはひと味違う「学び」を目指しました。

閉校式。耕人塾を巣立つ塾生は、口々に言います。「自分は耕人塾を通して、こういうところが成長しました！」と。

耕人塾で蒔かれたいろいろな希望や夢、志の種がやがて大輪の花となって、地域に、日本国に、そして世界に、人々の幸せを笑顔とともに運ぶことを願わずにはられません。

耕人塾に関わったすべての人に、感謝を…

